小体育科教育部会

教材の本質をふまえた体育指導のあり方

～器械・器具を使った運動遊び，器械運動（マット運動）を通して～

I　研究の内容

1　研究の具体的内容

（1）器械・器具を使っての運動（遊び），器械運動において，できる楽しさ,喜びを味わうことのできる授業づくりについて研究する。

（2）思考と技能を高めるための効果的な言語活動について,学習カード・タブレット等の活用とあわせて研究する。

（3）授業案をもとに授業実践を行う。その成果と課題について話し合い，今後の授業や研究に活かしていく。

2　授業研究

3年生　「器械運動」（マット運動）

関口　哲也　教諭　日下部小

5年生　「器械運動」（マット運動）

金井　　巌　教諭　奥野田小

（1）授業実践から学んだこと

・児童の自発的・協働的学びを引き出すためのオノマトペ等を活用した言語活動，能力に応じた場の設定，掲示資料等の指導の工夫。
・技を身につけさせるための運動感覚づくりの大切さ。低学年から高学年にむけて意図的継続的に取り組むことが望ましい。
・運動感覚づくりの日常化の工夫。
・学習資料の内容と本質を教師が理解することにより教育的効果の高まること。
・それぞれの技についての「できる」ためのポイントと指導方法。専門性の高い先生から学ぶことができて良かった。
・教材の本質をふまえ，「わかる」こと「できる」ことの達成感を味わわせることを不易のテーマとし，児童の実態・発達段階に応じた授業づくりをしていくこと。

（2）授業実践から，今後さらに研究を深めたいこと

・学び合いをこれからもどのように仕組んでいくのか。
・アクティブラーニングの深い学びの視点から、どのように授業を展開するのか。
・タブレットのより効果的な活用方法。
・苦手さや恐怖感のある児童をできるようにするための，指導方法と指導技術。
・児童が活動する際の教師の支援のあり方。
・技や動きのポイントの理解とそれを身につけさせるための指導法。

Ⅱ　成果と課題

1　成果

・昨年度の授業実践につながる学年で実践が行えたことで，運動の系統性について研究を深めることができた。
・マット運動における系統性，感覚づくりの重要性について，再確認できた。
・運動の特性と児童の実態を十分加味した授業づくりができた。
・指導方法や授業展開等の工夫により，自発的・協働的な学びを引き出すことができた。
・学習資料・掲示物を有効に活用した実践ができた。
・組織的研究によりより良い指導法を追求できた。
・教材の本質にせまる研究ができた。

2　課題

・研究の成果を各校に落としていく実践と工夫。
・児童の「できた」につながる学び合いの研究。
・学び合いを深めるための授業展開と方法をあきらかにすること。
（友だちの運動を見る児童の指導等）
・学び合いを深めさせるための知識（思考力）を児童につけさせる指導方法の研究。
（学習資料をより有効に活用するための指導）
・２年間研究した成果や課題をしっかりと積み上げ，次の研究，実践に繋げていくこと。

（部長　徳良　賢治）